

教員プロフィール

	<p>保育科 教授</p> <p>樋 川 隆 (ひかわ たかし)</p> <p>Hikawa Takashi</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (公共政策) (山梨学院大学)
資格・免許	<p>小学校一級普通免許状 (昭 53 小一普第 458 号)</p> <p>中学校一級普通免許状 (社会科) (昭 53 中一普第 369 号)</p> <p>高等学校二級普通免許状 (社会科) (昭 53 高二普第 379 号)</p> <p>社会福祉主事 (A 第 15149 号)</p>
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>1979 年 3 月 山梨大学教育学部教育科学科社会科教育専攻 卒業</p> <p>1998 年 3 月 山梨学院大学大学院公共政策研究科公共政策専攻 修了</p> <p><職歴></p> <p>1979 年 4 月 山梨県庁入庁</p> <p>1998 年 4 月 神戸親和女子大学教育専攻科兼任講師 (2002 年 3 月まで)</p> <p>2008 年 3 月 山梨県庁退職</p> <p>2008 年 4 月 山梨県職員労働組合中央執行委員長 (2013 年 3 月まで)</p> <p>2010 年 4 月 神戸親和女子大学ジュニアスポーツ教育学科兼任講師 (2013 年 3 月まで)</p> <p>2013 年 4 月 山梨学院短期大学保育科教授 (現在に至る)</p> <p>2013 年 4 月 山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科兼任講師 (現在に至る)</p> <p>2015 年 4 月 健康科学大学健康科学部福祉心理学科兼任講師 (現在に至る)</p> <p>2019 年 4 月 甲府看護学校兼任講師 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>社会福祉 子ども家庭福祉 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援論</p> <p>子ども家庭支援の心理学 社会福祉特論 社会生活と健康</p> <p>保育実習指導Ⅰ (施設)・保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ (施設)・保育実習Ⅲ</p> <p>社会福祉概論 (山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科)</p> <p>社会保障論、公的扶助、社会福祉行財政と福祉計画 (健康科学大学)</p> <p>保健医療福祉のしくみ 看護と法律、社会福祉 (甲府看護学校)</p> <p>関係行政論 (山梨英和大学)</p>
専門分野	児童虐待への児童相談所の介入論 児童福祉全般 社会的養護、里親支援
現在の研究テーマ	児童虐待への予防的介入、里親養育支援
競争的資金等の研究課題	該当なし
所属学会	<p>日本社会福祉学会 日本子どもの虐待防止学会 日本家族社会学会</p> <p>全国児童相談所研究会 山梨社会福祉実践学会</p>
メッセージ	<p>保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、これらはすべて対人援助の仕事です。いずれの仕事をめざす場合であっても、生活に密着した制度をどのように活用するかを考えることや他の専門職との連携が求められます。自らの専門性を高めるとともに他職種連携を意識しながら皆さんが対象とする方々に最も適切で十分な支援・サービスが提供可能となることを目指してください。</p>

教育	
2020年4月～2021年3月	
教育方針	対人援助職としての保育・教育者を意識した人材育成と養成を目指す。
授業	<p>授業の工夫</p> <p>＜社会福祉＞オンライン授業 社会福祉に係る全般を学習する専門教科である。保育士を目指す学生は、保育と社会福祉の関係を意識していないことが多いことから、保育と社会福祉との関係性を意識する授業を心掛けながら、社会福祉全般に関する専門的知識が獲得できることを目指した。特に授業形態がオンラインであったことから、授業資料の内容を従来よりも説明的な資料に修正をして毎回の授業に配付した。学生が毎回の資料をすべて綴ると社会福祉全般の内容が網羅されたノートが作成されることを意識して資料作りを行った。特に理解すべき戦後の社会福祉の発展の歴史については、授業者が執筆している教科書を活用し精読することを促し、授業資料と併せて理解度を引き上げる工夫を行った。</p> <p>また、オンライン授業であることから学生からの質問には、可能な限り早い段階で回答を行い、必要に応じて次回授業において質問内容と回答を受講学生全員と共有可能となるように質問と回答のポイントを解説した。さらに、各回の授業内容の理解度を確認するために小テストまたは授業者からの設問に回答する形でのリアクションペーパーの提出を求め学生の理解状況を確認しながら授業を進めた。</p> <p>＜社会的養護Ⅱ＞オンライン授業 クラス単位に演習として8回の授業であったことから、データの読み取り方法について説明を行った後、社会的養護の現状を示す最新のデータを用い、データから読み取れる状況を学生に検討してもらうことを中心に授業を組み立てる工夫を行った。本来であればグループ討議を実施したかったが、今回は個人検討を行いそれをまとめて提出することを行った。また、授業で使用した資料に学生が直接アクセス可能となるようにし、学生自身が発展的な学習が行える機会を提供するよう工夫を行った。授業には毎回資料を提供し、当該資料に基づいて授業の終了時には確認の小テストを課すようにした。授業資料及び小テスト内容等の対する質問には迅速な回答を行い、ポイントとなる質問等については、受講者と共有化を行った。</p> <p>＜子ども家庭支援論＞オンライン授業 授業資料を毎回作成し学生にオンライン配付して授業を行った。最近の傾向として子どもの背景にいる保護者と地域への支援の必要性が理解できるよう資料作りに工夫を行った。また、対人援助職としての保育士像を学生に獲得してもらうことを意識した授業構成を行った。各授業での資料とともに教科書で内容の確認を行うとともに、教科書に示されている引用文献や参考文献にもできるだけ説明を加え学生の参考になるよう心掛けた。</p> <p>各授業での学生の理解度を確認するために小テストや授業内容に関するリアクションペーパーをすべての学生に提出を求めて、理解状況を確認し、必要に応じて次回授業での追加説明を行った。学生からの質問には迅速に回答し、受講者全員と共有すべき内容については、次回授業の中で公開し、学生の理解度を引き上げる工夫を行った。</p> <p>ステップファミリーが増加していることを念頭に、その理解についても家族に関する考え方の変遷とともに理解できるよう説明を加えた。</p>

教育 (つづき)	
2020年4月～2021年3月 (つづき)	
授業 (つづき)	<p>授業の工夫 (つづき)</p> <p><保育実習指導Ⅰ (施設)・保育実習指導Ⅲ>オンライン授業 (2年生)</p> <p>保育実習指導Ⅰ (施設)では、社会的養護関係施設、障害児・者施設の役割と従事する職員に関する資料を提供し、確認のための小テストやリアクションペーパー等で理解度を確認するようにした。</p> <p>保育実習指導Ⅲは、臨床現場を意識した状況を学生の提示し、どのような対応を行うかを確認する課題を提示する工夫を行った。特に、場面をどのようにアセスメントするのかを中心に資料と課題、リアクションペーパーで確認しながら取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、保育実習Ⅰ (施設)が実施できなかった学生に対しては、障害系、児童養護系の各施設に講師派遣を依頼し演習を実施した。</p> <p><子ども家庭福祉></p> <p>新型コロナウイルス感染症のため学生全員が同一教室での受講が困難であったことから、隔週で授業者が教室を代わるように工夫を行い、学生に実質的な対面授業ができるように対応を行った。</p> <p>授業では必要な資料を毎回配付し資料に基づき授業を展開することを心掛けた。また、資料内容は常に新しい情報が入るように配慮するとともに、グラフ等の資料の出典を明確にし、学生が自らアクセス可能となるよう心がけた。</p> <p>保育士を目指す学生には、児童福祉法は身近なものであるが法制度となると苦手意識を持つ学生が多いことから、保育福祉小六法を購入するようにして、授業で引用する条文等をその場で確認するなど、法律に対する苦手意識を少しでも解消できるような工夫を行うとともに、保育現場がこれらの法律や指針に基づいて展開されていることを明示し自ら法律や制度を学ぶ必要があることを意識化させることにも努力を行った。</p> <p>また、現代的課題である児童虐待への対応と山梨県の実態に関する理解を深めるために山梨県都留児童相談所の児童虐待対策幹をゲストスピーカーに迎え山梨県内の状況が明確にわかるよう工夫を行った。加えて、児童虐待に対応した保育士の実例を提示し、学生が卒業後保育現場において体験した際に対応として何が必要なのかを学生自身が理解できるように事例検討を行った。</p> <p><子ども家庭支援の心理学></p> <p>新型コロナウイルス感染症のため学生全員が同一教室での受講が困難であったことから、隔週で授業者が教室を代わるように工夫を行い、学生に実質的な対面授業ができるように対応を行った。</p> <p>指定した教科書の内容に沿っての資料を作成し学生に配付して授業を展開した。特に最初は、生涯発達に関する授業内容で、授業者の専門外である発達心理学及び身体発達論の内容であったため、多くの参考文献を確認しながら資料作成に工夫を行った。さらに、2年時に学習する「子ども家庭支援論」との連携を意識しながら、家庭と家族、子育て家庭の現状と課題等を整理しながら、特に配慮すべき子どもと家庭が増加する傾向にあることから、その点に関する授業内容を正確に伝えるように努力した。資料の提示した各データは、その出典を必ず明らかにして学生が自ら発展的な学習ができるような工夫を行った。</p>

教育 (つづき)		
2020年4月～2021年3月 (つづき)		
授業 (つづき)	授業の工夫 (つづき)	<p><社会福祉特論></p> <p>冒頭の3回授業は、最近の子どもを取り巻く環境についてと学生が気になる子どもに係る課題について、資料を提示しながら講義を行った。その後、児童の権利条約について説明を行い、各条文の成り立ちと意味について、学生にグループ活動として検討させ発表させる形式で実施した。今年度の場合、グループでの検討が浅い部分があったので、条約と児童福祉法との関係性を検討する資料を提示しながら、現在の日本の状況に当てはめる作業を学生が行えるような助言・指導・工夫を行った。</p>
	授業改善のための取組	<p>①授業評価アンケートで目標達成率が低いものについては、提示資料の内容を見直し、適宜適切な資料提供に努めた。</p> <p>②学生からの質問等に対しては迅速、丁寧な回答し理解が可能となるよう助言等に取り組んだ。</p> <p>③行政の担当者から直接講義を受ける機会を提供した。</p>
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p>(卒業演習)</p> <p>学生自身が自ら取り組みたいと考えたテーマができる限り実現できるよう支援するとともに具体的な文献資料の提供を行った。また、その都度レポート作成に必要なアドバイスをを行った。</p> <p>児童虐待、児童相談所の対応に係るレポートが多かったが、発達障害への支援、障害者スポーツ、特別支援教育に関するレポートもあった。</p> <p>(修了研究)</p> <p>テーマ設定に至るまでの支援として多くの文献を提供するとともに、学生のイメージを具体化する支援を行った。また、ケース検討を要する学生には、検討する方向性と内容についての助言を行った。文献研究の学生には、研究の基本的な手続きから研究の方法に至るまでの助言を行いながら対応した。</p>
ゼミ	卒業レポート・修了研究テーマ	<p><卒業レポート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なケースの「養育困難な家庭」への支援 ・発達障害とその支援 ・障害者スポーツの意義と現状～世界と日本の歴史と当事者の語りから～ ・しつけと虐待について ・児童虐待について～児童虐待の背景と虐待の疑いのある子と保護者への対応～ ・赤ちゃんポストの現状とこれからについて～私たちにできること～ ・特別支援教育と福祉的就労の実態 ・児童相談所の虐待滞納の在り方を考える～野田市小4女児虐待事件・神戸児童相談所の事例から～ ・児童虐待の歴史を要因と一緒に考える ・児童虐待とDVの関係性について ・児童虐待による子どもの自傷行為について ・子ども虐待を防ぐには <p><修了研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害のある者の自立についての一考察 ・就学前児童の虐待事例の分析から考える児童虐待防止策

教育（つづき）		
2020年4月～2021年3月（つづき）		
課外活動	ジャグリング部顧問として部員を求めたものの加入者はなかった。	
2020年3月以前		
主な教育業績	<家庭支援論教科書執筆> 2016年1月 「保育実践と家庭支援論」（勁草書房 井村圭壯 今井慶宗 編 共著） <専攻科ゼミ活動> 2017年2月 専攻科ゼミ生が保育士養成協議会関東ブロック協議会主催「第30回学生研究発表」において修了研究の成果を発表した。	
研究		
2020年4月～2021年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
記載事項なし		
2020年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 保育実践と家庭支援論 （共著）	2016年 1月	勁草書房（井村圭壯、今井慶宗編）
（著書） 新社会福祉論 基本と事例 （共著）	2012年 11月	学文社（川池智子編）
（学術論文） 子どもを取り巻く山梨の環境 （単著）	2019年 3月	山梨学院生涯学習センター研究報告 （やまなし学シリーズ⑩）第33輯
（学術論文） 山梨県児童養護施設退所者調査報告書 ～退所者の10年間のあゆみ～ （共著）	2018年 5月	山梨学院短期大学地域連携研究センター、山梨県児童養護施設部会
（学術論文） 社会的養護事例の研究 （単著）	2015年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第35巻
（学術論文） 子どもの虐待と介入における「関係性」 （単著）	2003年 12月	山梨県医療社会事業協会

研究		
2020年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 支援費制度における社会福祉パラダイムとソーシャルワーカーの役割～アドボカシー、リエゾンをキーワードに～ （単著）	2003年 3月	山梨県医療社会事業協会
（学術論文） 児童虐待防止法をめぐって～子ども成長と人格の形成～ （単著）	2002年 4月	神戸親和女子大学生涯学習センター 紀要 第5号
（学術論文） 福祉心理学～オウムの子どもの処遇～ （単著）	2000年 3月	神戸親和女子大学生涯学習センター 紀要 第3号
（学術論文） ケースワーカーからみた子どもへの危機介入 （単著）	1999年 3月	神戸親和女子大学生涯学習センター 紀要 第2号
（学術論文） 児童福祉における公的介入について～児童相談所の処遇機能を中心として～ （修士論文）（単著）	1998年 3月	山梨学院大学大学院公共政策研究科 公共政策専攻
（その他） 山梨県医療社会事業協会の「これまで」と「これから」 （単著）	2019年 5月	山梨県医療社会事業協会創立50周年 記念誌
（その他） 埼玉県内市町村子育て支援・保育事業に関する調査最終報告書 （共著）	2019年 1月	公益財団法人埼玉地方自治研究センター 埼玉自治研 No. 52
（その他） 山梨社会福祉実践学会抄録巻頭言 （単著）	2018年 11月	山梨社会福祉実践学会
（その他） 子どもの養育力地域で高めよ （単著）	2018年 4月	山梨日日新聞（時標）
（その他） Q&A で学ぶ！成年後見制度－発達障害のあるかたの権利や財産を守る成年後見制度や日常生活自立支援事業 （共著）	2017年 1月	LD. ADHD & ASD (No. 60 : 1月号) 明治 図書

社会貢献

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2020年4月～2021年3月

- ・山梨県社会福祉協議会監事（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉協議会役員選任・解任委員会委員（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉協議会広報委員会委員長（現在に至る）
- ・笛吹市社会福祉協議会役員選任・解任委員会委員長（現在に至る）
- ・山梨県医療的ケア児支援検討委員会委員（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉事業団役員選任・解任委員会委員（現在に至る）
- ・山梨県立うぐいすの杜苦情解決第三者委員（現在に至る）
- ・令和2度山梨県子どもの学習支援事業者選定委員（2020年5日まで）
- ・子ども守る山梨ネットワーク会議構成員就任（現在に至る）
- ・山梨県中央児童相談所相談支援課スーパーバイザー（現在に至る）
- ・児童福祉司等及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修会研修講師（8月3日）
- ・令和2年度里親登録前研修講師（8月21日、10月9日）
- ・令和2年度放課後児童支援員認定資格研修会講師（10月28日）
課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護、子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ
- ・南アルプス市社会福祉協議会 市民後見人・生活支援員養成講座講師（1月22日）
- ・令和2年度中北教育事務所・中北地域教育推進協議会講演会講師（1月28日）
- ・第1回子ども守る山梨ネットワーク会議市町村部会研修会講師（2月12日）
- ・甲州市子育て支援課保育士研修会講師（2月16日）
- ・山梨県社会福祉協議会 日常生活自立支援事業新任支援員研修会講師（2月17日、3月16日）
（山梨県委託事業）
- ・令和2年度民間保育士等キャリアアップ研修講師（3月8, 9, 10, 19, 22日）（山梨県委託事業）
保護者支援・子育て支援の意義（8日）、地域連携（9日）、社会資源（10日）、相談援助（19日）、児童虐待対応（22日）

2020年3月以前（主なもの）

- ・山梨県社会福祉協議会役員選任・解任委員会委員
- ・笛吹市社会福祉協議会役員選任・解任委員会委員長
- ・山梨県医療的ケア児支援検討委員会委員
- ・やまなし社会的養育推進計画策定委員会座長（2020年3月まで）
- ・2019年度山梨県子どもの学習支援事業者選定委員（2019年5月まで）
- ・山梨県中央児童相談所相談支援課スーパーバイザー
- ・山梨県医療社会事業協会会長（2015年度～2019年5月まで）
- ・山梨県富士・東部教育事務所、山梨県都留児童相談所研修会（教師向け）講師（6月27日）
- ・山梨県立育精福祉センター指定管理事業者選定会議委員（9月まで）
- ・山梨県児童福祉司等及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修会講師（7月1日）
- ・山梨県峡南教育事務所・峡南地域人権講演会講師（7月9日）
- ・第69回社会を明るくする運動池田・新田地区講演会講師（7月10日）

社会貢献（つづき）

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2020年3月以前（主なもの）（つづき）

- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業新任生活支援員研修会講師（9月13日）
- ・山梨県社会福祉協議会生活福祉資金研修会講師（9月25日）
- ・山梨学院社会的養護フォーラムの講師選定、講師との交渉、日程調整、実施、総合司会（10月22日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業現任生活支援員研修会講師（10月28日）
- ・大月市保育所連合会研修会講師（10月31日）
- ・昭和町町議会研修会講師（ローカルガバナンス学会）（11月11日）・令和元年度放課後児童支援員認定研修会講師（11月13日、14日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業専門員・生活支援員研修会講師（12月4日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業専門員・生活保護ケースワーカー研修会講師（12月11日）
- ・山梨県中央児童相談所中学校指導主事連絡協議会研修会講師（12月12日）
- ・令和元年度第11回郡市指導主事会議研修会講師（2月10日）
- ・笛吹市公立保育所保育士研修会講師（2月18日、19日）
- ・山梨県社会福祉協議会令和元年度相談援助技術研修会（2月20日）

受賞 ※個人、所属団体

該当なし